

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪-もう一つの平泉-』パンフレット12頁 —

3 比爪-奥州藤原氏第二の拠点- ② 周縁遺跡

《下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡（紫波町南日詰下川原）(3)》

その他に、火葬施設と推測される遺構や、かわらけを生産した「かわらけ焼成遺構」などが検出されています。このような埋葬や生産に関わる機能を持った空間は、中世都市の周縁部に位置する事例が日本各地で多く見受けられ、下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡も、都市的空間である「比爪中核部」に対応する都市周縁部の機能が当てはまります。

このように、下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡は比爪の川湊として機能を持ち、川湊に伴う管理者の居館や物資の集積所があり、また、種々の手工業施設、宗教施設が存在し、多くの人が往来する比爪の表玄関としての風景が想像されます。平泉と比爪を結ぶ舟運の往来も盛んであったことでしょう。

《《《 12～1月行事予定のお知らせ 》》》

<p>12月 4日 (日曜日)</p>	<p>第17回定期講演会</p>	<p>時刻/午後1時30分から午後3時30分まで (受付開始時刻:午後1時) 会場/日詰駅前 紫波町赤石公民館 講師/鈴木賢治氏 (紫波町教育委員会専門調査員) 演題/発掘調査から見る比爪館跡 — 東側に新たな館跡発見か — 参加料/一人 500円(会員200円)当日、受付へ 参加申込/11月28日までにFAXで赤石公民館 019-676-3999へ送信。 お問合せ/090-3125-3776(高橋)</p>
<p>※ 講演会終了後、参加者の皆さんで「鈴木賢治さんを囲む懇談会〔会費1,000円〕」を開催します。参加を希望する方は、当日受付へ申し込みください。</p>		
<p>1月14日 (土曜日)</p>	<p>赤石公民館 講座 《後援事業》</p>	<p>時刻/午後1時30分から午後3時30分まで (受付開始時刻:午後1時) 会場/未定(赤石公民館または赤石小学校) 講師/八重樫忠郎氏 (平泉町総務企画課長補佐・元世界遺産推進室室長補佐) 演題/比爪館の歴史を生かした「まちづくり」 ※ 参加無料</p>
<p>11月16日 (水曜日)</p>	<p>第77回月例発表会</p>	<p>午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者: 平井和夫 テーマ: 吾妻鏡にみる奥州平泉7 発表者: (未定) テーマ:</p>

☆☆☆☆☆ 北海道札幌市の 樋爪千鶴子さんが、特別会員として入会! ☆☆☆☆☆

前号の樋爪健志さんのお便りに続き嬉しいお知らせです。紫波町観光交流協会から、ご自分のルーツを調べておられる北海道札幌市在住の樋爪千鶴子さんについての連絡がありました。ご本人と直接お話をし特別会員として入会いただくことになりました。“樋爪さん全国サミット”開催?の夢が実現する日がくるまで、これからも皆で努力し続けましょう。

田鎖車堂前(宮古市)の発掘調査

今回は、比爪館跡の発掘調査シリーズを中断し、11月20日に行なわれた宮古市の田鎖車堂前遺跡の現地説明会資料から、一部抜粋して転載します。(写真は当日撮影)

1 はじめに

田鎖車堂前遺跡の発掘調査は、宮古西道路建設事業に伴い、道路が広がると思われる約20,000㎡を対象として、事業によって失われる遺跡の記録を後世に残すために行っています。昨年度、一昨年度に続き今年度も約7,000㎡を対象に4月から調査を開始しました。

昨年度までの調査で縄文時代から江戸時代までの遺構や遺物が多くみつかっています。中でも、平安時代終わり頃(約800年前)と平安時代初め頃(約1,200年前)の様子は、この地域を代表する遺跡であることを物語っています。

さらに、今年度の調査でこれらを補強する多くの成果が得られました。

2 平安時代終わり頃の遺跡と遺物

岩手では平泉に藤原四代の拠点が置かれた時代です。

【堀】昨年度みつかった堀の続きを確認しました。堀は西へ向けて延び、途中緩やかなカーブを描いて北に向きを変えています。さらに、堀の南西隅には橋がみつかりました。土橋(どばし)と呼ばれるもので、通路幅のみ掘り残して造られています。ここが西側出入口だったようです。堀を埋めていた土を観察すると、堀に沿って内側に土塁を(どるい)と呼ばれる土手が存在したこともわかりました。

【建物】堀内部空間では、掘立柱建物が複数等見つかりました。掘立柱建物とは柱の穴を地面に掘り、柱を立てる構造の建物です。これらは建物平面形状などから現段階では堀と同時期の建物ではないかと考えています。

4 遺跡の全体像

3年の調査結果をまとめると、この場所は縄文時代から集落として利用され、平安の初め頃、閉伊地方の中心的な集落になったと考えられます。その後、平安時代終り頃に堀を備えた有力者の居館として利用されますが、平泉で藤原氏が滅ぼされる頃、この居館も機能を停止するようです。その後、室町時代以降再び人が住み、江戸時代の農村へと姿を変えます。



※ 出土遺物は、かわらけ、青磁/碗、白磁/四耳壺・水注・碗、青白磁/碗、中国産陶器/碗、土師器/壺・坏、須恵器/壺、常滑窯産/三筋文壺・鉢・甕、渥美窯産/鉢・甕、水沼窯産/甕、銅鏡、土製紡錘車が展示され、鉄製品の展示はありませんでした。